

行政区・ここが知りたい!

矢板市にある68の行政区。記者が
この一々では、かわら版と
この目した行政区独自の
ご紹介しします。

木幡東行政区

印南源一区长さんを訪ね、
お話を伺いました。

木幡行政区は昭和二十五年
ごろ行政区のバランスを考え、
東と西に分かれ現在の行政区
になったのではないかとこの
と。

そのうち、木幡東行政区は
戸数が四百六十二世帯で四十
八班。土地区画整理事業(木
幡東は木幡神社の北と東)を
行って世帯数が増え、区画整
理したところだけで四十六世
帯増えているとのこと。
川崎小学校と東小学校の二
校に通う児童がいるので育成
会も二つあります。それぞれ
が行政区との協力により、活
発な活動をしています。

●心の交流としての活動
矢板市のふるさと祭りの流

木幡神社本殿は、国の重
要文化財というすばらし
い建築物。矢板の歴史的
建造物と言えば真っ先に
ここがあげられるほど。
その木幡神社を中心に、
先人の歴史が残る木幡の
東、西、両行政区をお訪
ねしました。

し踊りには、行政区の
皆さんの協力により、
毎年百三十人前後参加
していただき、法被も揃え、
流し踊りに華を添えて見事
です。そのまとまりの良さが高
く評価され「よく集まったで
賞」を毎年受賞しているほ
です。



また、二十年前から、毎年
十月下旬に、子どもからお
年寄りまでが参加して、盛
大に、和気あいあいと、区
民レクリエーションを行っ
たり、バスを貸し切って日
帰りで旅行に行ったり、心
の交流ができる機会を設け
るようになっています。

●心の教育の一環
八年前より高齢者と子ど
もとの交流会を毎年行っ
ています。

木幡東公民館でペタンク
や輪投げ、折り紙を一緒
に楽しんだ後に、老人会



公民館でペタンクを
明るい声が響きます

のこもったスイートン汁が交流
会を盛り立て、和やかな雰
気の中、親睦を深めます。
高齢者と子どもの明るく弾
む声が聞こえ、子どもたち
は楽しかった思い出として
つまでも心に残ることだと思
います。
●これからの取り組み
新しく移ってきた人もいる
ので、地域のすばらし
さを知ってもらおうよう
に、コミュニケーション
をとって絆を深め、
大切にしていこうよう
に努力をしていきたいと
思っています。

●木幡東の自慢

古くから住んでいる人も新
しく移ってきた人も、人のつ
ながりの違和感がなく協力的
なのが木幡東の良いところで
すね。(MU)

木幡西行政区

「木幡通り」や「県道
矢板那須線バイパス」
の開通、「道の駅やい
た」のオープンなど地
域環境が大きく変わる
木幡西行政区について、
どう対応していくのか
区长七年目の齋藤勝位
さんにお話をうかがい
ました。

●「地域コミュニティ 推進事業」の木幡西行 政区活性化プランが、 矢板市役所の審査会で 承認されたそうですが、 具体的な取り組みは？ 具体的には

◆「向こう三軒両隣り」
互助の精神づくり(安
全安心な地域の構築、
高齢者世帯への「ちっ
ちゃんな親切運動」)
◆高齢者の生きがい活
動サポート(公民館で
のお茶飲みばなし週二
回、いきいき健康体操
教室月一回、高齢者向
け料理教室など)
◆公民館・集落内の美
化およびフラワーロー
ドづくり(通年)

◆住民レクリエーショ
ン(ふれあいまつり、
健康ウォーク、スポー

ツ大会、年輪の集いな
と)

◆小学生の環境調査体
験(六月、八月)

◆伝統行事への参加
(木幡神社例大祭の参
加四月、十月、一月)

◆「心」の
教育「事業として、た
こ作りやそば打ち・も
ちつき体験、公民館周
辺の美化活動など、こ
れまでも大人から子ど
もまで参加できる活動
を平成二十年度からす
すめてきました。が、地
域の皆さまの協力を得
て、これをさらに進化
させていきたいです。

●農地・水・環境 保全対策も実施さ れていますか?

平成二十三年度
が最終年度になり
ますが、地域の人々
による農道敷砂利
や水路整備・道路
脇の草刈などを通
じ、行政区内の融
和が図られました。
補助事業が終わっ
ても、これらの活

動は継続していきたい
と思います。

●いろいろご苦労が多
いと思いますが?

道路が開通すること
により、市街地形成が
変わってくると思われ、
その生活環境の変化に
どう対応していくかが
悩みの種です。また、
独居老人対策や地域の
後継者の育成にも課題
があります。いずれに
しても隣近所の付き合
いが少なくなってきた
いる今日の状態を改善
していくため、地道な
取り組みの積み重ねが
必要であり、木幡西行
政区活性化プランの確
実な実行が、この地域
の活性化に繋がると確
信しています。(H)



子どもたちと一緒にたこ作り
市長もたこ作り名人??